

【話し合いを切り出す際の注意点】

- **自然な話し合いを心がけ、本人を緊張させない**
「どの方にも、このようなお話しをしているのですが・・・」と、特別な話ではないことを伝えましょう。
 - **人生会議の前向きな側面に焦点を当て、話し合いのメリット等を伝える**
 - ・ 本人のメリット : 将来の医療・ケアに自分の意向が反映されやすくなる
 - ・ 家族等のメリット : もしもの時、本人がどんな医療・ケアを望むのか考えやすくなり、代わりに考える際の精神的負担が軽くなる
 - ・ 医療・介護スタッフの思い : 本人の意向を今後の医療・ケアに活かしていきたい
- ※「もしもの時に備えるため」という側面を強調しすぎると、本人は希望が持てず、話し合う意欲を失ってしまうことがあります。

【話し合いのポイント】

- **「決める」より、「話し合う」が大切**
つい、急変時の具体的な対応方針を決めておきたくなりますが、一度決めても気持ちはよく変わっていきます。人生会議の土台となる“本人の価値観”に焦点をあてて、繰り返し話し合うことが大切です。
- **本人と医療・介護スタッフとの信頼関係が話し合いの土台として必要**
初対面でいきなり価値観に触れる話し合いは難しいかもしれません。信頼関係を構築しながら、話し合いが出来るタイミングを待ちましょう。
- **本人と代わりに伝えてくれる人が話し合っておくことが大切**
身近にいる家族でさえ実は思いが伝わっていないこともあります。「以心伝心」を期待せず、ぜひ日頃から代わりに伝えてくれる人と話し合っておくことを勧めましょう。
- **こちらの価値観を押し付けない**
医学的な最善が本人にとっての最善とは限りません。治療や療養場所の選択だけが目的ではなく、本人がどのような生活を送りたいか、これからどう生きていきたいか、本人の最善と一緒に考えることが大切です。
- **多職種によるアプローチが重要**
日々の何気ない会話の中に、本人の思いが表れることが多々あります。本人の思いをより正確に把握するために、各職種でこまめに情報共有しましょう。また、役割分担を行い、チームアプローチを心がけましょう。
- **繰り返し、考え話し合う機会を持つ**
病状や気持ちの変化に応じて、思いも変わっていきます。思いの変化を許容しながら、定期的に（誕生日等）、考え話し合う機会を持ちましょう。
- **本人が消極的な姿勢を見せたら無理をしないで中止する**
中止した上で、話し合いを希望しない理由を聞いておきます。その理由に本人の価値観が表れることがあります。
- **法的な効力は持ちません。**

※「私の思い 記入シート」の各ページにおけるポイントは、「手引き 詳細版」に記載していますので、ご確認ください。（「手引き 詳細版」は吹田市ホームページからダウンロード可能）